

real voice

## 利用者の声

お昼まで支援室で過ごして、外でお弁当を食べて帰るのが定番のコース。天気の良い日は近くの『五月山公園』や『五月山動物園』に行くことも。育児についてママ友と話したり、先生に相談したりできるのがいいですね。



4歳女の子・1歳女の子のママ

学生さんの見守りがとても上手。上の子が小さい頃よく通っていて、大学祭にも親子で遊びに行きました。学生さんが楽しく遊んでくれて、子どもも喜んでいました。こういう場所が家の近くにあるのはありがたいです。



4歳女の子・1歳男の子のママ

「おもちゃがたくさんあって、色々試せるのがいいですね。大人から見ると良いと思う物を買っても、子どもが気に入るとは限らないので」とはあるお母さんの言葉。支援室のおもちゃは背の低い棚に並べられており、子どもたちは興味に向くまま、好きなおもちゃを手にとることが出来る。しかしこのおもちゃたちもただ並んでいるわけ

ではない。1歳児には音や感触が楽しい感覚遊びのおもちゃ、3歳児にはまごなど模倣遊びのおもちゃ、というように、保育理論をもとに選び、配置しているのだ。

支援室全体の空間づくりとおもちゃ選びを担当したのは「子ども教育学科」准教授の戸松玲子先生。支援室の魅力は、生活の中の保育にあると話す。子どもの発達に定期健診でも

### 保育の理論を活かし生活の中で見守る



巻頭集

木の風合いがやさしい、人気のままごとセット。この日も女の子が慣れた手つきで次々に野菜を切り分けていた



“遊びは学び”でおおきくなあれ！

# 大阪青山大学 子育て支援室

箕面市内外から親子が訪れる『大阪青山大学 子育て支援室』。おもちゃ箱のような空間は、スタッフや学生の保育への思いと、大学ならではの空間づくりに支えられていた。



### 大学生が運営に参加する地域の子育てサポート

絵本がずらりと並ぶ小さなお家、カラフルなボールでいっぱい木のままごとセットに、またがって遊べるぬいぐるみの動物たち。子どもたちも思わず夢中になる。この場所が大学の敷地内にあるとは、一見するとわからない。

「大阪青山大学健康科学部子ども教育学科」の運営する『子育て支援室』（以下、支援室）は親子と一緒に過ごせる無料の施設だ。開室は平日月～金曜日の9～12時までで、幼稚園教諭や保育士の免許資格を持つスタッフが常駐。0～2歳児を中心に、小学校低学年までの子どもを受け入れている。

「好きな時に来て、遊びたいように遊べる場所です」と同大学4年生の山下智夏さん。毎週水曜日には大学の授業の一環として、スタッフに同学科の学生が参加している。山下さんもその1人だ。学生といっても座学で保育理論を学び、い



健康科学部 子ども教育学科 4年生

やましたちなつ ひろくに まなみ  
山下智夏さん 広國真奈美さん

「教えるばかりでなく、一緒に遊べる小学校の先生になりたい」という山下さん。保育士を目指す広國さんは「暮らしの中で、子どもたちを穏やかに見守り育てたいです」と語る

確認しているが、病院での健診は子どもにとって非日常の出来事で、緊張してしまうことも。一方支援室ではのびのびと遊ぶ子どもの姿を通して、親が専門家と一緒に成長を感じられる。また、教員による育児相談も可能だ。専門機関に頼るほどではなくても、「夜泣きが激しい」「下のきょうだいが生まれて上の子の赤ちゃん返りが始まった」など、育児の悩みを抱える親は多い。育児相談では保育の視点から具体的なアドバイスを受けることができる。



健康科学部 子ども教育学科 准教授

とまつ れいこ  
戸松 玲子先生

「子どもとずっと一緒にいると、成長に気づきにくいこともあります。少し離れて見ることで成長ぶりを実感してもらえれば」

### 子どもの成長に欠かせない遊びの可能性が広がる場所

わが子がやがて幼稚園や小学校へ通うようになるとわかつてはいても、楽しく通えるか、他の子どもたちとうまくやっていけるかという心配になるのが親心。子どものそばにいつも家族がいる家庭ならなおさらだ。そんな時、ならし、の場としても支援室は利用できる。子ども同士で遊ぶ様子を見守ったり、同じく支援室を利用する親子と情報交換



親子の触れ合いは、楽しい絵本やおもちゃがいっぱい！

くつもの幼稚園や小学校で実習を経験した4年生。来春には現場で活躍する、保育士や小学校の先生の卵たちだ。同じく4年生の広國真奈美さんは「小さいお子さんは、家でできなかったことも支援室で遊ぶ中でふとできるようになることがあり、お母さんたちに驚かれます」と話す。学生が幼稚園の実習で接するのは園児のため、保護者との関係作りは新人保育士の課題。在学中にさまざまな親子関係を知り、保護者と言葉を交わす大切な機会となっている。

この取り組みが始まったのは2008年。保育士や看護師、栄養士など多くの職業人を育成する同大学として、地域の子育てを支援しようとして開設した。徐々に設備を充実させ、近隣の子育て世代を中心に口コミで広まった。



創立50周年を迎える同大学。10/29(日)に「大学祭」が開催される  
22ページの「Event news」にて詳細を掲載

支援室スタッフが手作りしたすべり台も人気



をしたりといった体験は、親にとっても安心材料になるはずだ。

子どもの遊びには生活の中で得た体験が色濃く反映されるといえる。想像力を伸ばし、心と身体の発達をうながすうえでもとても大切だ。さらに戸松先生は、「幼少期の遊びや熱中したものは、子どもが将来選ぶ仕事にもつながっていく。子どもにとって、遊びは学びです」と言う。

設備や利用システムを充実させ、本格的に開室するようになってから6年。その間、多くの学生が保護者から子育ての実情を学び、親子の交流を手助けしてきた。これまでの運営の中で、利用する親子の日常生活に寄り添うことが大切だとわかった。気軽に遊びに来てもらえたら」と戸松先生は語った。

### 取材協力

#### 大阪青山大学 子育て支援室

【住所】箕面市新稲 2-11-1  
大阪青山大学  
箕面キャンパス 本館 1F  
【対象】乳児～小学校低学年  
※保護者の同伴が必要  
【利用料】無料  
【HP】  
www.osaka-aoyama.ac.jp/  
society/parenting\_support/

利用について詳しくはHPをチェック